



令和7年度

中学生の「税についての作文」入賞作品

税と共に

洋野町立中野中学校

三年 高際 大和

一般社団法人岩手県法人会連合会会長賞

は学校生活を続ける中でできた不満を思い出しました。

なので次は、学校

を含め税金の宿題について話します。僕

が入部した卓球部の活動場所は、季節に

よって寒暖差の激し

僕は今まで、「税」というものに全く興味や関心がありませんでした。ですが、租税教室でさまざまな「税」について教えていただいたことで、自分の暮らしには税金が深く関わっているのだと知ることができました。

まず税金の種類や量、関係についてです。日本には約五十一種類の税金があり、国が徴収する国税と地方自治体が徴収する地方税に分類される、これを知ってまず一番に種類の多さにとても驚きました。そのたくさんの税金を親や地域の方々が納めていたことで今の僕達の暮らしが保たれていることは、学校の教科書を用いて学んできました。衣食住、勉強や学習には税金が欠かせないということを今年になって改めて覚えました。学びや運動の環境を整えるための税金、これを考えたときに僕

いサブアリーナの中でした。特に夏場は活動禁止になるほど暑くなるためよく窓を開けています。ですが夜の練習の際に開けてしまうとライトの光に虫が寄って入ってきてしまい困っていました。だから常々僕は「網戸を付けてほしい」と思っていました。こういう小さな願いにも税金はかかります。また、「令和の米騒動」や「物価高」などの増税は国民や企業の負担も比例して増え、景気の悪化につながります。

中学三年生になって租税教室で税についてくわしく知って改めて税金と自分と地域の関係を理解できました。でももっと早くに税金について学びたかったとも感じました。給食を残す、教科書をボロボロにする、ランドセルやバッグを投げ置く、そんなたわいもないことを悔やんだりしてしまう前に、「税

金」という暮らしに欠かせないものを踏まえて、物を大事にするこの意味をもっと早くから学んで知っておきたかったです。

今の僕や他の中学生は、親や地域、洋野町の税金のおかげで暮らしが保たれ、家に住み学校に通うことができていますが、その今の僕達がいつか大人になったときにはその時の若い世代を支える側にしなければいけない、その責任を担う存在であることを今から意識する、そして支えられてきたことに感謝する、今の僕達がするべきことは、そう思うことだと考えました。だから今は、幸せな暮らしは税金と共に、支えてくださる方々と共にあるものだということを忘れないで生活していきます。

【中学生の「税についての作文」とは】

全国納税貯蓄組合連合会及び国税庁では、子供たちの租税教育の推進の一環として、毎年、全国の中学校の御協力を得て中学生の「税についての作文」の募集を行っています。

これは、将来を担う中学生の皆さんに、税に関することをテーマとして作文を書くことを通じて税に対する関心を持っていただき、また、税について正しい理解を深めていただくことを目的として、昭和42年度から実施しているものです。

令和7年度は、全国から426,388編（仙台国税局管内14,445編）の応募がありました。

（後援）一般財団法人大蔵財務協会、日本税理士会連合会、公益財団法人全国法人会総連合

【納税貯蓄組合とは】

納税貯蓄組合法に基づく団体で、納税資金の備蓄による各種税金の円滑な納付を目的として、国税・県税・市税等の納税者で組織された団体です。